

本文書では、国内外の保健機関や研究機関が発表した公式文書に基づいた情報が記載されています。そのため、報道機関向け会見等での発表情報は含まれていません。国内外の保健機関や研究者が調査中のため、本文書の公開日から情報が大きく更新されている可能性があります。最新の情報をご確認ください。

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の変異株 BA.2.75 系統について

国立感染症研究所

2022年7月8日時点

BA.2 系統の亜系統である BA.2.75 系統が定義された(cov-lineages.org, 2022)。該当する最初の検体は、6月2日にインドから報告されたものである(GitHub, 2022)。7月7日時点で、GISAID に登録された 64 件が該当すると考えられ^{注)}、うち 48 件はインドからの登録であり、マハーラーシュトラ州から最も多くの報告がある。そのほか、英国、ドイツ、米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドから報告がある(covSPECTRUM, 2022)。日本ではインドに渡航歴がある者から検疫で検出された1件が該当するとみられるが(6月13日検体採取分)、国内では検出されてない。

BA.2.75 系統は、BA.2 系統と比較して、スパイクタンパク質に K147E、W152R、F157L、I210V、G257S、G339H、G446S、N460K の各変異を有しており、BA.1 系統、BA.2 系統などで見られた Q493R 変異は有さない(GitHub, 2022)。これらスパイクタンパク質の変異は抗体結合部位の構造に影響している可能性が高く、例えば G446S 変異は BA.1 系統と共通する変異で、ワクチン接種による中和抗体からの逃避への影響が示唆される。

インドでは BA.2 系統とその亜系統が主流であったが、BA.5 系統の割合が上昇しつつあった。そのような傾向の中で、6月以降 BA.2.75 系統の割合の上昇が検出されたことから、BA.5 系統に対する BA.2.75 系統の感染者増加の優位性を注視している。このような BA.2.75 系統の割合の増加はインドで観察されているのみである。インドでは5月には低水準で推移していた感染者数や死亡者数が6月以降増加傾向に転じているが、BA.2.75 系統の相対的増加と関係があるかは現時点では不明である。疫学的な評価については、今後の各国での検出状況、感染者数や重症者数の推移を注視する必要がある。また、BA.2.75 系統は既に複数国で検出されていることから、現在の検出状況は過小評価である可能性があることに留意が必要である。

^{注)}BA.2.75 系統は Pangolin の判別データベースに反映されていないため、データベースの検索式の入力方法によって数が異なる場合がある。

参考文献

- cov-lineages.org. <https://cov-lineages.org/lineage.html?lineage=BA.2.75>
- covSPECTRUM. <https://cov-spectrum.org/explore/World/Allsamples/Past6M>
- GitHub. BA.2 sublineage with S:K147E, W152R, F157L, I210V, G257S, D339H, G446S, N460K, R493Q (73 seq as of 2022-06-29, mainly India). <https://github.com/cov-lineages/pango-designation/issues/773>.